

令和8年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【大宮東中学校】

学力向上 アクションマップ

①	今年度の目標と学力向上策
重点的に育成する 資質・能力	①【知識・技能】自己の習熟度を把握し、学習方法や課題を「自ら選び、調整する力」 ②【思考・判断・表現】多様な考えや断片的な知識を「つなげ」、根拠をもって「深める力」 ③【学びに向かう力・人間性】デジタルでの振り返りを通して、自身の学びを客観視する「メタ認知能力」
↓	
実施する学力向上策 【時期・頻度】	①基礎層の底上げと上位層の伸長のため、授業の導入・終末や家庭学習において、生徒自身が習熟度に応じた課題を選択して取り組み時間を設定する。【各教科の日常的な授業内や家庭学習にて継続実施】 ②授業実践チームが作成したスライド等の「ひな型」を活用し、全教科において生徒同士がリアルタイムで意見を共有し、多様な考えをつなげて思考を深める場面を設定する。【週1回程度から各教科で実施】 ③ICT推進チームが定めた標準ルールに則り、授業の終末に学習支援ソフト等を用いた振り返り活動を全校共通の仕組みとして実施し、学びを客観視させる。【全教科において日常的に実施し、習慣化を図る】

ざらざら(構円)

⑤	年度末評価	
学力向上策の 実施状況	評価(※)	①結果分析(管理職・学年主任等) ②詳細分析(学年・教科担当) ③分析共有(児童生徒の実態把握)
	↓	
今年度の成果と 次年度の課題	結果提供(2月)	

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果の分析	
特徴的な結果	調査の振り返り(4月) ↓ 結果から考えられる 児童生徒の実態	

④	さいたま市学習状況調査結果の分析	
特徴的な結果	↓ ①学校全体での取組 ②単元テスト・定期テスト等の分析・活用 ③中間評価を経ての取組 ④調査結果を活用した授業	
結果から考えられる 児童生徒の実態	学力向上策の見直し	

③	中間評価	
学力向上策の 実施状況	評価(※)	学力向上策の 見直し

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

教育研究所